



心のビタミン No.195

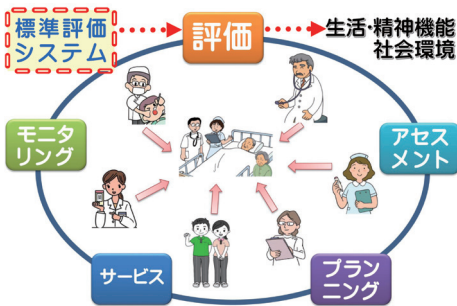


ICTで変わる医療

ICT(情報通信技術)がさらに発展している。マインバーの運用が始まるなど、我々の生活はコンピュータ無しでは成り立たない。ウェアラブル端末として眼鏡型や腕時計があり、手袋、指輪型や衣服型まで登場した。着衣すると胸部から体温や心電波形が送信され、熱中症対策も可能だ。

医療分野でもICTの適用が拡大中。超高齢社会に対して、総務省は新たな社会モデルの確立を推進してきた。ICTの活用によって、スマートプラチナ社会推進会議を開催することに。クラウド時代に応じた懇談会では、業務と連動した標準評価システムの普及を提唱している(図)。

さて、今年から選挙権を持つ18歳の世代は、つとと共々に育ってきた。彼らの長所はコンピュータ操作に慣れ、あらゆる物がネットに接続される



IoT(Internet of Things)を最大限活用できること。弱点は人との関わりがやや懸念されることだ。

一方、中高年者もICTの恩恵で医療から広い領域に。バーチャル(仮想現実)からロボットとの共存へと進む。本来、鉄腕アトムやドラえもんから発展し、掃除機ルンバ、介護用パルコ、ペッパ、分身ロボットオリヒメなどが今活躍中だ。日々の生活や人生が激変していく。あなたはどうか対応するだろうか。

(医師・音楽家板東浩)